

市民協働課	課長	統括	スタッフ

平成22年度 第1回御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会

日時 : 平成22年4月24日(土) 午前10時～午前11時45分
 場所 : 交流センター「ふじざくら」 第3・4会議室
 出席委員 : 勝亦祐貴・志水香苗・前田慶子・渡邊恵子・日比野和代・勝亦敦志・勝間田たき子・近藤八重子・沓間 捷・湯山有朋・牛山久仁彦・杉山達夫・村松亮子・杉山保子・南 美幸
 事務局 : 瀬戸補佐・西山副主任・勝又主事

1 開会

2 会長あいさつ

3 自己紹介

行政職員委員が人事異動により変更したため

4 協議事項について

(1) 平成21年度協議会事業報告について

次第資料P1～2より事務局が説明

(2) 平成21年度協議会収支決算について

次第資料P3より事務局が説明

監事である志水香苗氏により監査報告

※ (1)、(2)ともに質疑無し

(3) 平成22年度協議会事業計画(案)について

次第資料P5～6より事務局が説明

(4) 平成22年度協議会収支予算(案)について

次第資料P7より事務局が説明

委員H: 収入の「市交付金」が35万円から20万円に減っているが、これはどういうことか。

事務局：減額の理由は主に2つあり、1つは研修を実施する際にバス代等の予算を取らなかったのと、2つめは消耗品等の事務費の減額である。1つめの研修に関しては、今年度は公用車を利用するなどして実施していく予定である。

会長：(3)(4)は資料とおり承認でよろしいでしょうか。

一同：了承。

(5) 平成22年度監事の選任について

事務局の案により、21年度に引き続き「志水香苗氏」と行政職員委員から「杉山達夫氏」を推薦させていただき、その案で全員了承。

(6) 平成22年度補助金審査方法について

次第資料P9より事務局が説明

委員K：相手方である行政担当課が提案された事業に対し、どのような意見を持っているか、事務局に予め聞いていただき、発表してほしい。

委員D：21年度までは委員が「評価シート」で点数を付けても、それは委員個人で参考にするものであって、審査会で公表することはなかった。22年度は委員がつけた点数を集計して、平均点を審査会時に公表したいと思うがどうか。

委員K：その評価シートは審査会時には公表しなかったが、その後、ネット等では公開しているのか。

事務局：していません。

委員K：落ちた団体がなぜ落ちたのか等を考える時の参考になるので、一般に公表するのが基本だと思う。

委員B：21年度はなるべく多くの団体に交付するという方針で審査を行ったが、今年度はどうする。

委員C：21年度は担当課から直接意見を聴けたので非常に良かった。

委員K：自治体によって様々だが、市民協働の補助金の審査方法は点数で決めていく形が多いと思う。

委員C：21年度は団体のやる気等をもって交付決定した事業も見られたが、今年度もそのような場合、市民協働課でより指導をして、市民協働事業にもっていく必要がある。

委員D：行政側だけの問題では無く、団体側も決定してしまうと、行政側の話を聞かなくなることもある。その点も委員は理解しながら審査しなければならない。

委員E：交付されなかった団体へのフォローが必要。

委員A：相手側（行政）との審査会前の打合せは必須条件だと思う。

委員K：どこが悪かったというのを団体に伝える手段として、点数をつける方法が分かりやすく良いと思う。審査理由をはっきりさせるためにも公開も含めて検討してほしい。

委員D：様々な意見がでたが、上記の意見を踏まえ、22年度の審査方法は『基本的には21年度と同様な手順で実施する。ただし、審査委員が付けた評価シートの平均点と自由コメント欄の公表と、相手側（行政）の意見を事務局で事前に聞き、公表する。』でよろしいか。また『評価シートの平均点の一般公表は検討する』ことよろしいか。

一同：了承。

5 その他

事務局で「事業評価シート」「事業実施後の評価用紙（委員用）」
「平成22年度補助金募集のお知らせ」について説明。

この中で、評価用紙は午後（4月24日）の各団体の報告を聞いて、点数を付けてほしいことと、その後、事務局でまとめて、次回協議会で市民協働事業実施後の評価についての検討材料とすることを説明した。

6 閉会